

2015年度S Semester力学A  
(担当：加藤雄介) 2015.04.12

第01回講義(04/10)に関連した問題 「微分法とベクトルを用いた運動の記述」

## 理解度確認問題

### 第1問

等速円運動では加速度の大きさは一定であることを示せ。また加速度は回転の中心を向くことを示せ。

### 第2問

半径  $R$  の等速円運動の周期が  $R^\alpha$  に比例するとき、向心力をもたらす力の大きさ  $F(R)$  は  $R$  の何乗に比例するか。 $\alpha = 3/2$  の場合はどんな状況で実現するか。

## 補足問題

以下、 $\mathbf{A}(t), \mathbf{B}(t)$  は時刻  $t$  に依存するベクトルであるとする。また  $r(t) := \sqrt{\mathbf{r}(t)^2} = \sqrt{\mathbf{r}(t) \cdot \mathbf{r}(t)}$ ,  $\mathbf{v}(t) := \sqrt{\mathbf{v}(t)^2} = \sqrt{\mathbf{v}(t) \cdot \mathbf{v}(t)}$  であるとする。また  $\frac{\mathbf{r}(t)}{r(t)} = \mathbf{e}_r(t)$  とおく。

### 第1問

$$\frac{d}{dt}(\mathbf{A}(t) \cdot \mathbf{B}(t)) = \frac{d\mathbf{A}(t)}{dt} \cdot \mathbf{B}(t) + \mathbf{A}(t) \cdot \frac{d\mathbf{B}(t)}{dt} \quad (1)$$

を導け。

### 第2問

$$\frac{d}{dt}\mathbf{A}(t)^2 = \frac{d}{dt}(\mathbf{A}(t) \cdot \mathbf{A}(t)) = 2\mathbf{A}(t) \cdot \frac{d\mathbf{A}(t)}{dt} \quad (2)$$

を導け。

### 第3問

$$\frac{d}{dt}r(t) = \mathbf{e}_r(t) \cdot \mathbf{v}(t) \quad (3)$$

を導け。

### 第4問

$r$  の関数  $f(r)$  に対して

$$\frac{d}{dt}f(r(t)) = \frac{df(r(t))}{dr(t)}\mathbf{e}_r(t) \cdot \mathbf{v}(t) \quad (4)$$

を導け。

## 演習問題

第1問  $x(t)$  が次の関係式 (微分方程式)

$$m \frac{d^2 x(t)}{dt^2} = -kx(t) \quad (5)$$

を満たすとき、

$$\frac{d}{dt} \left( \frac{m}{2} \left( \frac{dx(t)}{dt} \right)^2 + \frac{k}{2} x(t)^2 \right) = 0 \quad (6)$$

を示せ。

第2問  $\theta(t)$  が次の関係式 (微分方程式)

$$m\ell \frac{d^2\theta(t)}{dt^2} = -mg \sin \theta(t) \quad (7)$$

を満たすとき、

$$\frac{d}{dt} \left( \frac{m\ell^2}{2} \left( \frac{d\theta(t)}{dt} \right)^2 - mg\ell \cos \theta(t) \right) = 0 \quad (8)$$

を示せ。

第3問  $r(t)$  が次の関係式 (微分方程式)

$$m \frac{d^2 \mathbf{r}(t)}{dt^2} = -\frac{\alpha \mathbf{e}_r(t)}{r(t)^2} = -\frac{\alpha \mathbf{r}(t)}{r(t)^3} \quad (9)$$

を満たすとき ( $\alpha$  は定数)、

$$\frac{d}{dt} \left( \frac{m}{2} v(t)^2 - \frac{\alpha}{r(t)} \right) = 0 \quad (10)$$

を示せ。